

令和元年度 第6回四万十町文化的施設検討委員会 議事録

日 時 令和元年11月5日(火) 14:00～16:00

会 場 四万十町役場 東庁舎1階 多目的大ホール

出席委員 内田純一、林 一将、田邊法人、酒井紀子、刈谷明子、下元洋子

欠席委員 谷口和史、高垣恵一、山本哲資、池田十三生、林 伸一、川添節子、青木香奈子、
友永純子、中平浩太

事務局 熊谷敏郎教育次長

生涯学習課(味元伸二郎副課長、森山典将主幹、松田佐穂主任)

図書館・美術館(長木千葉美、谷脇八代美、山地順子、山口香)

(事務局)

定刻を少し過ぎましたが、ただ今から令和元年度第6回四万十町文化的施設検討委員会を始めます。
内田先生、よろしくお願ひします。

(内田委員長)

皆さん、こんにちは。第6回文化的施設検討委員会にお集まりいただきましてありがとうございます。

お手元の資料をご確認ください。本日の資料と、先日お送りいただきましたが、少し変更があった「文化的施設基本計画」そのもの。それから後で詳しく紹介しますが、A3用紙一枚で全体像が見える基本計画の概要版を、ARGの有尾さんが作ってくださいました。

もう一つは、先だっで行われた米こめフェスタで、子どもたちを中心に自由に書いてもらった意見を、資料に用意していただいております。

今日は基本計画の協議をして、ほぼこれで固めていくのがメインです。

最初に、先だっの米こめフェスタの様子を振り返る時間を取って、そして協議に入りたいと考えております。4時を目途に進めていきたいので、よろしくお願ひします。

ではまず、米こめフェスタのVTRを下元さんが作ってくださいましたので、その様子を見て、ご意見ご感想を頂ければと思います。

【下元委員が制作した米こめフェスタ当日VTRを上映】

(内田委員長)

ありがとうございました。大変素晴らしく、(当日が)思い出されるものでした。

少しご感想など頂きたいと思いますが。

下元さんか酒井さんか、いかがでしょうか？ 元々は自主グループを起ち上げるという形で取り組みを始められましたよね。大変ご苦労されたと思いますが、やってみてどうでしたか？

(酒井委員)

そうですね。スケジュールの中では以前から米こめフェスタに出店すると決まっていたものの、主体的に動かすに当たって、自分事に捉えてなかった面がありました。それが実際にどのように動くのかを見ていただけでした。自分たちが動かす側でやり始めたところ、「これはなかなか大変な作業だな」と実感しました。

よく官民共同といわれますが、米こめフェスタそのものに歴史があって、そもそもがとても集客力があって。自分たちが行くともうテントも張ってくれてたので、自分たちの準備だけすればいいとか、警備員が揃ってるとか、当日は安定感に助けられました。

それまでの紙袋集めでは、四万十町全域の保育所・小中学校・高校と、関係する35団体の分のチラシを生涯学習課に刷ってもらって、各学校の校長先生にお話しして、(児童・生徒に) 通達してもらうのを、他の方と一緒にやっていました。

取り組みが二段階も三段階もあるので、先生まで伝わるのも相当難儀しました。紙袋を集めて、その紙袋に(チラシを) 貼って、紙袋を貼る時に良かったらコメントを入れてくださいというのを、一から飲み込んでもらうまでが時間がかかりました。

その分、集まった紙袋は、少なく見積もっても1,200枚、皆さんと一緒に配布したのは900枚に登りました。

今、私のもとに配られなかった紙袋があります。イベント当日に私も至らなくて、現地で貼ればいいチラシを充分数、用意してなかったのが、紙袋だけとなりました。これらはまた別の機会に活かさればと思って置いてあります。

私は(イベント当日) ほぼ紙袋を渡す部隊で、下元さんたちはこちらを貼って子どもたちに呼びかけてくださる側でした。

配っている時の感想としては、バックにあるものにすごく助けられました。「これは子どもたちが集めて、子どもたちが貼ったんですよ」と言うと、すごくここにこして受け取ってくださるお客さんばかりでした。「可愛い！」とか「まあ、こんな貴重な」とか。ハードルが低くてやりやすかったです。

(紙袋を) 配ってしばらく経つと、持ち歩いてくださる方たちがたくさん居るもので、それを見かけて新しく来たお客さんが「あの紙袋はどこで貰えるの？」と言って取りに来てくださることもたくさんありました。

周知に関しては、小中学生に聞いてみたところ、「これが私たちの作った紙袋なんだ」というのと、「図書館・美術館・郷土資料館が新しく出来る」ということがやっと繋がった子たちがいました。高校生も「出来るんだ」とか。親御さんでもびっくりされた方も結構いらっしやって、知らない人が数多くいたことを実感しました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

下元さんはどうですか？

(下元委員)

当日まで何日も何時間もかけて、本当にたくさんの方のご協力を得て初めて成り立ったというところに、皆さんにお礼を申し上げます。

イベントをやるに当たって、一つか二つ（企画が）あれば充分かな、と思っていたんですが、当日にやったものは、図書館の方々のおかげで、色んな内容を含んだ面白いイベントになりました。

四万十会館のロビーで図書館員さんが読み聞かせをしてくださって、子どもたちがそこで読み聞かせを体験できるという素敵な空間もありましたし、400冊の本を提供するブックリサイクルもあったりして、本好きな私にとってはわくわくしました。

紙袋に関して、最初から決まっていたことじゃなくて、途中からこうしようということになって、色んな小中高の学校にご協力いただきました。皆さん、前向きに取り組んでくださいましたし、出来上がった物をお客さんが大変喜ばれて素晴らしかったなど。

こういう作業をして声かけをした皆さんはすごく大変だったと思いますが、おかげさまで、本当にありがとうございます。他ではなかなか見ない素敵な取り組みになったと思います。

あとは、自分の担当分はそこにあるのをご覧いただければ。

【会場壁面に、米こめフェスタ当日に使用した、四万十町全域図の大型拡大図を掲示】

【町拡大図には、当日にお客さんが書いた意見の付箋が貼ってある】

(下元委員)

参加してくださったのは保育所や小学校の子ども、低学年の子、小さい子が多かったですが、すごくしっかりした考えを書いてくれてますし、自然がとても好きなのが伝わってきます。

こういうことに関わって本当に楽しかったです。本当に皆さんに感謝しております。ありがとうございます。

(内田委員長)

ありがとうございました。まだ話されたいこともあるかと思いますが。

反応としては良いもので、皆さん非常に興味を持ってくださっていたし。「へえ、そうなんですか」という方も含めて。多くの方が、これからこういう施設を作ろうとしているんだと知る機会にもなったでしょうし、改めてそういうものを望んでいる気運みたいな、そういう声を肌で感じたと私なりには感じています。

一方でまだまだかな、というのもあります。もっとこういうことを続けたらいいなと本当に感じました。

今、下元さんがおっしゃったように、一つのことを多面的にやる、色んなことを重ねながらやっていくことも必要でしょう。多世代の人が関われる機会をまだまだ広げていけるかなという感触を持ちました。

この中でさっきの「自然が好き」という子どもが多いとか、感じたことをおっしゃってもらってますが、何か発見したことはありますか？

(酒井委員)

子どもたちの意見は、ここに書いてある以外に、紙袋に貼ったチラシごとお渡ししてしまったので、これは一部に過ぎないんです。

これらを見たら、大人の力がちゃんと子どもに向けて注がれさえすれば簡単に実現するような、とても単純でかわいい思いが真剣に綴られています。「かわいい絵が見たい」とか本当に小さい願いなんですけど、それが叶えられてないってことがちょっと悲しく思いました。

あとは、基本計画の中に何度か書かれていますけど、「施設が閉じられたものでない」の逆で、今回はかなり開かれたかと。関わってくださる方が多様だったので、広がりがあって、やってる内にあれもこれもしたくなるような。

例えば刈谷さんは窪川高校の生徒さんと関わって、何か自分たちにもできることを、と携わってくれたんですけど、もう少しちゃんと前段階から準備しておけば、高校生にとっても社会的に学びのある試みになっていいと思いました。

内田先生が大学生を連れてきてくださるってことでしたが、それをもっとちゃんと前段階から組み合わせさせてやっていけば、中高生にとっては大学生と出会うチャンスでもありました。

芸術分野でも、芸術に力を入れている方は町内にいらっしゃって、パフォーマンスしていただくことも可能でした。

今後もしイベントがあった場合、広がる発想はあるかなと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

全然遅くないですよ。むしろこれから、第一歩が踏み出せて、色んなアイデアがたくさん湧いてきたって意味では、本当に大事な機会になったと私も思っています。

今言っていたことが広がって、この施設が生まれ、継続していくというビジョンは見えてきた感じがしました。

そんなことを委員会の中でも共有した上で、また最後の基本計画に繋げていければと思いました。当日はありがとうございました。

岡本さん、どうですか？ 全国的な動向も見た上で、こういう取り組みで感じたことがおありでしたら。

(ARG 岡本)

率直に言って、まず例がないと思います。めちゃくちゃ素晴らしいことで、この段階でここまでやったの、日本に例がないと思います。

新しい例でいえば伊万里市。伊万里市も20年前はこういう活動をしていたといいます。伊万里市は市民協働のメッカの一つ。四万十町からすればその背中はまだまだ遠いんですけど。開場から撤収まで見て、伊万里市の皆さんもこうやって始めたんだなって痛感しました。

伊万里市の市民協働の会には私も参加させていただいてますが、当時の話を伺うと、やっぱり「必死だったよ」と。もうおばちゃん・おばあちゃんですけど、まさにここにいるお母ちゃんたちの年頃だったと

思うんですね。乳飲み子抱えて駆けずり回ったとかよく聞くので。

同じようなことが四半世紀の時を超えて新たな文化として生まれてきたということ、私は非常に感動を持って見ていました。

特に、多くの方々に紙袋を渡したのもいいんですが、一番効いたのは書いていただいたことです。袋を集めたことと、書いてもらったこと。私もかなり紙袋配りはしましたが、「ああ、あれか」という、「出来るんだ」というふうに言われたのが。

これは酒井さんの、2年前からずっとあった危惧として、「私たちは委員をやらせてもらってるからいいけど、本当に町民に伝わってるんだろうか？」「このまま進めていいんだろうか？」という迷いや不安があたりだったと思いますが、それは今回かなり払拭されたと思います。伝わってるなこれは、と非常に感じました。

講演会やシンポジウムをやるのも大事ですが、一方でこういう町民の手作りの場こそが本当に人にメッセージを伝えてくことだとまさに思いました。

酒井さんからすれば課題や反省点はありますが、初回としては充分だと思います。

もっとできたというのは、来年以降、次の米こめフェスタやそれ以外でも、大正や十和のお祭りなどに、これからも顔を出して、みんなで図書館・美術館と一緒に育っていくんだって最初から作れていけたらいいと思います。

あとは事故や怪我人もなく終わってよかったと思いました。イベントをよくやってる人間としては、特に主として関わられた方々はお疲れだと思うんで、そんな余裕はないとは思いますが、ぜひちゃんと休んでほしいです。

(内田委員長)

ありがとうございました。

ぜひこの気運をずっと繋げていければいいと感じます。

それでは時間も限られていますので、文化的施設の骨子(案)の協議に入らせていただきます。

まず、基本計画の概要版を作ってくださいしたのは ARG の有尾さんです。ご紹介がまだでしたので。

(ARG 岡本)

今年 10 月に入社しました有尾です。あとで本人からも自己紹介してもらいます。

下吹越が産休に入りまして、近況を述べると 1 週間以内に出産の予定であると皆様にお知らせ申し上げます。

(ARG 有尾)

10 月 1 日付で ARG に入社しました有尾と申します。よろしくお願ひします。

先月と今回、2 回 (四万十町に) 伺っておりまして、こちらで楽しく仕事させていただいています。これからも関わっていくこととなりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(内田委員長)

それでは計画の中身に入ります。事前にお配りいただいた資料をご覧ください。

黄色塗りの文章が、前回までの協議を踏まえた部分です。後ほど時間を取って協議したくと思いますが、p14～15の「諸室仕様」ですね。どういう部屋を想定するかの部分について少しご意見の時間を取らせていただこうと思います。

ではまず黄色塗りの文章ですが、ここは歴史的資料や文書資料について協議したところです。本日はお見えになっていませんが、山本さん、高垣さん、池田さんとは事前に事務局のほうで対談等させていただきながら進めて参りました。

(林(一)委員)

委員長。

これは文化的施設の詰めの大事な議題ですが、今日は委員の出席が少ないです。

委員会としてはある程度の者が出席して、意見調整をして、一つの意見書にしていくのが非常に大事だと思います。

(事務局)

今日は文化協会の展覧会の関係で、欠席を最初にお伝えいたしました。

今日は重大な案件になるので、事務局で(欠席の委員さんたちの)お話を聞かせていただいて、この場に出させていただきます。

前回、池田委員から指摘があった箇所も重々お話を聞かせていただいて、事前にこの資料も渡して、これで問題ないとお伺いしております。

(林(一)委員)

秋にはかなり行事がありまして、正直私たちも忙しいですが、あまり(出席が)少ないと、意見がまとまったと言える状況にならないんじゃないかと心配しまして。

(内田委員長)

ありがとうございます。大事なお指摘を頂いたかと思えます。

欠席の委員にも、事務局からきちんと伝えていただくのもお願いしないといけませんし、すでにご欠席の連絡を頂いてる方には、事前にお渡しして、事務局でもご意見を頂いて。林委員のおっしゃった懸念のないように行くよう考えておりますので、この人数ではありますが、積極的に協議をしていきたいと思えます。

大きな日程としては、次回までには一定の確定をするよう進めたいと思っております。次回には、この委員会として、教育委員会に文書をお渡しするという日程で動いて、進めております。

それでは中身に踏み込みたいと思えます。

p2とp13に歴史資料・文書資料もんじょうの位置付けについて、加筆させていただきました。これについてご意見があれば。

概ねこういうふうな、むしろ、この施設において収蔵・展示機能を有することを基本方針とするとしてと位置付けられたかと思えます。

(刈谷委員)

黄色塗りの箇所について、歴史資料や文書資料が増えたということだと思いますが、p3のイの1に赤字で「展示機能」が何で書き加えられたんですか？

展示機能が歴史資料・文書資料に限ったものではないなら、美術館での展示とそれ以外の展示ってところをもっと、美術館の中の機能に展示が含まれないのかどうか。

(内田委員長)

そうですね。美術館としての展示機能と、もう少し広い意味での展示機能という点では分けるイメージです。

もちろん図書館にも美術館にも展示機能はあるわけですが、資料の幅という点であれば、ここにあって「展示機能」を加えるという意味だと思っていただければ。

この委員会の中だけで解決できるものではないだけに、この先のことにもあえて踏み込んで、その在り方をずっと考えていくことが必要だと、そこまで書かせていただきました。

ではおおよそこの部分に関してはこの形で反映してよろしいでしょうか？

この部分も出席されてない委員にも連絡して、おおよその方向でいいという了解も頂いていると先ほどご報告があった通りです。

では、この部分は了承を頂いたとして、p13～p14については岡本さんにご説明いただいてから話し合おうと思います。

全体を通して何かございますでしょうか。

(酒井委員)

この中に書き込めるものではないでしょうが、今回この郷土資料に関して議論が白熱したのも、課題が山積しているのは、専門的にずっとやってらっしゃる方が抱えて、外との繋がりが機能してなかったからです。

私たちも郷土資料館や民具館の抱えてる問題が、しっかり把握できてません。全体的な把握が誰もできていないことが問題だと思います。

資料や民具は、今回こうやって問題が見えてはきましたが、美術館のこと。この中に「見るだけじゃなくて体験する」「創造する」というものを入れる時に、そういった活動をされているグループも存在していて、その方たちと繋がってないと生きたものにはなっていない。

委員会はこのメンバーでやってますが、同時に、池田さんや山本さんたちが在籍してる会やグループの意見を持ってきてくれるとか、ここには美術の分野で活躍されている人の意見を持ってきてくれるとか、そういった試みがあれば。

議題に上がって初めて「そんなんじゃ困る」となるくらいなら、そうしたほうがもう少し円滑に行くのかなと。

(内田委員長)

ありがとうございます。

そうだと思いますが、これで終わりじゃないですね。今後、よりこの基本計画を受けて、実際に形に

してもら業者さんが決まる中で、またそこでの話し合いやワークショップを考えていきます。

やはりそういう意味では、もっと多くの町民の参加が必要になりますし、その時にそういうグループの方たちに加わっていただく取り組みは、この委員会の中で実感してると考えます。

(ARG 李)

ちょっとよろしいですか。

今の話は p13「図書館資料」の項で「三つの収集方針」を書いています。酒井さんの今話したことは当然この中に入ってきます。なのでそういったことも含めてこの計画の中では枠を決めつつ、細かい所は今後、ネットワークを通しながらで。

あと、美術館を作る時に、難しい問題ですが、今の四万十町の子どもたちが本当に世界に出会う場としてのアートという意味合いがあります。

一方で旧来の公立美術館は、地元の人たちの作品をとにかく展示することに力を入れることがままありました。

新しい美術館の動きではそうではなく、地域にいても世界に出会う。そういった意味合いもあるんです。

そういった部分をこのテーマの中でしっかり議論する必要があります。ただ「地元だから」という理由で、それが本当に町の子どもたちの未来のためかどうかは、きちんと考えないといけません。

ここには十分に書き切れてませんが、アートを通した学びはこの施設に非常に重要な要素です。美術館の議論が今まで少なかったですが、そういった要素を、この計画書の中には詳しくないですが、考えられるように含めているつもりです。

なのでそういったことは今後、具体的にきちんと議論していかなければと思っています。

(内田委員長)

ありがとうございます。

最初に大きなテーマがあり、五つの役割がありコンセプトがありということは、李さんの話含めて全然外れてませんね。その基本原則をきちっと踏まえた上で、今みたいな話に広がっていく可能性があるだろうと。

それでは、p14～p15の「想定する諸室仕様」を、岡本さんに説明していただいて、協議したく思います。

(ARG 岡本)

はい。この表がどういうものかというところ、基本計画の中でもかなり重要なポイントですが、端的に言えば施設の規模感がどれくらいになるかを算出したものです。

あらかじめ確認していただきたいのは、「面積として以下の仕様を想定します。ただしこれは絶対的なものではなくあくまで目安として、今後の設計者選定プロポーザルやその後の設計協議を経て、最終的な合意を形成します」とあるところです。

設計者選定の際、設計者にはこの計画書を読んでいただいて、この計画書に見合うこんな施設がいいのでは、というのを提案していただきます。その提案に際して、ある程度の施設の目安規模がないと、提

案が同じ土俵で出されなくなってしまうので、ここに希望する面積を出しています。

ただしこれは、私どもも含めて、設計のプロではありませんので、概ねの数を出したものです。設計者からしますと、見た時に「いや、これとこれをこう組み合わせたほうが、もっと空間として賢く使える」とか、職員の方から「こういう部屋にしたほうがいいんじゃないの?」とか出てくると思いますし、そこを踏み込んだ提案をしてくださる設計者を選ぶことが肝要だと考えています。

ですので、以下にある数字はあくまで、現状における、とりあえずの案だと思ってください。最終的な数字は変わってくると思います。

基本的な公式といえますか、一般的な考え方がありまして、そこに基づいて記載しました。エントランスはこれくらいの広さが必要かな? そして、作業室や事務室も。

これは私もこの場で何度か申し上げましたが、住民にとって使いやすい施設において、実は非常に大事なのが、職員の働く場所です。職員の働きやすい事務室がきちんとあるかは、確実に、カウンターサービスに影響します。ですのでここに比較的多めの場所を取っています。

あと荷捌き室ですね。美術館が展示機能を有しますので、それなりに物の搬入があります。作業室もあります。作業室とは別に荷捌きができる。いわばバックオフィスや流通、ロジスティクスの空間を比較的ゆめに取っていることになります。

更衣室は職員の更衣室兼休憩室になる部屋です。近年では休憩室のような部屋を設けないことが多いんですが、図書館や美術館は一般の町民さんと相対する仕事です。中にはきついクレームを言われて精神的に落ち込むこともあります。なので、町民さんの目が無い所でリラックスできるのは非常に大事だと思っています。

特に四万十町の場合、町域は広いとはいえ地域の関係はかなり密なので、ちょっと気晴らしに外に出たとしても結局人と会ってしまうことなどを考えますと、館内での休憩室、利用者からは目に付かない場所をきちんと確保するのが良いかと思います。こういうのは最近、住民からかなり厳しく批判されがちですが、町民の皆様にはぜひご理解いただきたい。私としては拘りのポイントです。

そのあと、配架・閲覧・展示エリアとしています。最大 1,000 m²です。これくらい取りますと座席目安数が最大 100 席まで確保できようかと思っています。

この数字も今日ご検討いただければと思いますが、最大 5 万点ほどの本が配架、つまりすぐ手に取れる状況にする、それくらいの本棚を置くことになります。

そしてまた、美術館資料の展示場所、先ほど出た歴史資料・文書資料を 10 点程度は展示できる展示空間。

この展示空間の作り方は設計者の提案を期待したいと思います。例えば瀬戸内市のように床面に埋め込むスタイル。あるいは、これは多くの図書館でやられてますが、本棚の中に展示を組み込んで立体的に見せるという、工夫の提案を求めたいです。

そして書庫ですね。閉架書庫に約 2 万点程度の収蔵が可能と考えます。

以上から、約 7 万点の最大収蔵冊数を考えることになります。

そして、収蔵庫。美術品および歴史資料・郷土資料・文書資料を収蔵する場所が、書庫とは別にきちんと必要だと思います。現在の美術館の環境はかなり厳しいですので、ここにちゃんと既存の作品、これから収蔵していくであろう作品を収納できるようにする。

そして、スタジオ・アトリエですね。1 年前のワークショップを思い出してください。窪川高校の美術

部の女子が言っていました。「私はこういう場所で制作活動をしたい」「みんなと一緒に作品を作りたい」とおっしゃっていました。私も含め皆様、感銘を受けたかと思います。この子の声にここで応えようかと思ひます。

美術制作や、それ以外の創造的活動、ワークショップが行えるようなアトリエ空間を 300 m²と考えていきます。このスタジオ・アトリエは作品制作だけではなく、例えば今回米こめフェスタに向けて準備したようなことがみんなできワイワイ、ここでできたりすることが肝要かと思ひてます。

合わせて、それとは別に交流コーナー、住民同士の交流の場を設けています。

あとはお手洗いですね。この広さに対しては、実はやや多めです。ですが高齢化がより増していく中で、実は公共のお手洗い機能の充実は重視されています。お手洗いは後付けが大変な工事になってしまうので、どうせなら。あの周辺、半平さんや岩本寺、お遍路さん用のお手洗いとか充実してますが、とはいえちょっと距離はありますし、お子さん連れの親御さんのことを考えますと、お手洗いをあらかじめ多く取っておけばと思ひています。

あとは、未定としてますが電気設備等機器が入る部屋が付き、合算しますと 2,100 m²程度。

何階建てかはあえて明記していません。敷地面積が 3,300 m²ですので、平屋で建てられないことももちろんありません。この辺に関してはまさに餅は餅屋なので設計者のプロポーザルにおいて、階高の制限も特に設けずに、平屋であれ 2 階・3 階建ての提案であれ、そこはプロに頭をひねっていただいて、四万十町に最もふさわしい考え方をご提示いただくのがいいと思ひています。

(酒井委員)

私、こういう感覚が分からなくて。例えばここのホールって何m²なんですか？

(ARG 岡本)

200 m²くらいですね。

(下元委員)

これはすごいと思ひたのが、スタジオ・アトリエの 300 m²。広すぎることもないけどすごいなとか、書庫と同じくらいのだと嬉しいというのがあります。収蔵庫も結構な広さが要ると思ひますが、それよりまだ広くてびっくりしました。これくらい広かったらオーケストラも入りそう。室内で区分して色んなことができそうだとも思ひました。

(ARG 岡本)

各数字は最大値と思ひていただくのが良いと思ひます。例えばもみわ広場が 2 階建てで 2,900 m²あります。

これがあくまで窪川に置かれる施設であり、大正や十和とのバランス等々を考えた際に、多くてもやはりこれくらいではないかと。

ですからこの数字が絶対にいいわけではありません。下元さんのように制作活動や子ども向けのワークショップなどされてる方が「大きい」と感じるようでしたら、ここまで無理しなくてもいいんじゃないかという発想があってもいいかと思ひます。確かに 300 m²といいますと、ちょっとした小ホールですね。

一方で四万十会館など類似施設が町内近隣にありますので、そこまでしなくても、ってことであればもうちょっと縮小するという考え方もありだと思います。

あくまで参考ですが、2,000㎡のものを作るとしたら10億円程度は余裕でかかると思います。実際は10億～20億円の数字で。これは工法その他によって全く変わってきますが、2,000㎡くらいになると、それくらいはかかります。

この時点では何とも言えませんが、町の限られた財政の中で無理のない投資をしたほうが良いというのはずっと出てきたお声です。

最後になるとつい気が大きくなって数字が高めに付きがちなんですが、そこはぜひ、今の感じで慎重にご検討いただきたく思います。

(ARG 李)

補足すると、酒井さんが先ほど、数字だとイメージが分からないと言われたのはその通りで、図面がない段階ですとこう表すしかないんです。

実際、今の図書館にしても美術館にしても、全て明確に分かれる必要がない部屋がたくさんあります。

だからそういったものが、今後、設計の中では、設計者の工夫が提案されて、それに対して、四万十町として選ぶことになると思います。

どうしても文字と数字だけだとこう分けざるをえないんですが、今は曖昧なスペースもあります。必ずしも「スタジオ・アトリエ」というだけで300㎡ではない。

これは、サイトスペシフィックといいまして、その環境の中で作って、それがそのまま展示されるということも起こりえます。そう考えると、これは「スタジオ・アトリエ」であり「展示スペース」でもある。

あとは、いわゆるパフォーマンスアート、演劇や体を使ったものに関しても、ここでできるようになると、それは実演できる場でもあり、それが何かの展示に繋がる。

もっと言うと、パフォーマンスアートがインスタレーションのようなものだったり、映像などと一緒になったりすると、これは従来のスタジオ・アトリエではない。もっと広い意味を持ちますので、そういったことと、いま岡本が言った「大きめに見てる」という両方の側面があるとお考えいただければと思います。

(酒井委員)

李さんがおっしゃったことと合わせて2点、質問があります。

1点目は、もみわ広場は1階・2階を合わせて2,900㎡ということですか？

(ARG 岡本)

全部合わせて2,900㎡です。

(酒井委員)

平屋にしたらこれが単純に2倍になったということですか？ 1階・2階を合わせて2,900㎡ということですか？

(ARG 岡本)

延べ床面積なので1階・2階を合わせた床全部ですね。

もみわはバックヤードに収蔵庫と、移動図書館の車庫があります。一番奥に、そんな大きくないですが事務室があって、それらをひっくるめて2,900㎡です。

(酒井委員)

1階部分だけでも相当広かった印象だから、2,000㎡というと相当大きい感じですね。今の規模からすると。

(ARG 岡本)

そうですね。かなり大きくはなります。

ただ、もみわ広場は空間の使い方がなかなか上手いところだと思います。私も2,900㎡と聞いて驚きました。もっと狭い印象がありました。

あれはおそらく空間的に吹き抜けを作りつつ、上と下とを上手く一体感のあるように繋いで作ってあるからです。

あと、あそこはかなり用地に無理がある場所だったので、建物内をジグザグに走る作りになっている結果、あんならざるをえなかった部分もあるかと思います。

窪川の場合、今回の予定地は比較的使いやすい土地で、建物の形状にほぼ制約がないといえるので、いたずらに大きくする必要はないと思います。

(酒井委員)

じゃあ、オーテピアのワンフロアは何㎡くらいですか？

(ARG 岡本)

ワンフロアが大体4,000㎡です。

仮に今回の施設を平屋として2,100㎡で作ったら、オーテピアを半分くらいでワンフロアと見ていただくと良いです。

オーテピア西の土地がありますよね？ あれぐらいの雰囲気です。

㎡は後で変更が利きます。それこそ設計者にもっといい案を提案していただき、その提案にその人の腕や、本当にちゃんと四万十町に来て考えてくれたかを見抜いていただくのが良いと思います。

それよりは名称になってる「エントランス」や「事務室」と、機能を書いてますが、抜け漏れがないかを見ていただきたいです。

ここはぜひ図書館職員さんの意見を伺いたいです。職員導線に配慮されてる文化施設、市民利用施設は明らかに使いやすいです。

一方でオーテピアの課題は、職員事務室はほぼ上の階にまとめてしまったので、職員の連携導線が極めて悪いというのがあると思います。あの規模になると致し方ないですが、前の高知市民図書館は、非常に職員導線がよく考えられてました。

職員からすれば、こういう機能が必要じゃないかというのがあれば教えていただきたいです。

(刈谷委員)

トイレに関してですが、多目的トイレは作らないんですか？

(ARG 李)

ここには細かく書いてないだけで、入ります。

(酒井委員)

いわゆる授乳室とかも？

(ARG 李)

この諸室仕様では出していませんが、そういうものは公共施設としては入ってきます。

(ARG 岡本)

多目的トイレでもう少し突っ込んで考える余地があるとしたら、例えば熊本県菊陽町。引き戸が右開きと左開きの二つがあります。図書館ではそこしかないと思います。脳梗塞で半身不随を患っている方のためです。

あれ、「多目的」と言いながら、右半身不随の方からすれば使えないんです。ご本人からすると全然お話にならない。多目的でユニバーサルデザインのつもりが全然ユニバーサルじゃない。菊陽町は非常にそれを重視して、二つ、あえて両開きになるよう作ったと聞いてます。実はこれ、多目的トイレを二つ作るということです。

これはまだこの先の検討でもよいですし、設計会議の場で町民の皆さんと対話する機会があると思いますが、その時に、この町として人に優しいとはどういうことかを、そういうところに反映させると良いと思います。せっかく子育て中のお母様方がいらっしゃるの、小さな子を2~3人連れている時にどうあってほしいのかとか。それは子育てを大事にするこの町ですごく大事な点です。

ここでそこまで期待しなくていいかもしれませんが、授乳室なども、お父さんが入りやすい必要があるんじゃないか、とか。これは例えば、大分県豊後高田市の図書館では、「パパでも使いやすい」部屋をあえて作って、「イクメン室」という名称の部屋があったりします。

(刈谷委員)

すごく細かいことですが、男性が子どもをトイレに連れて行ってもおむつを替えるところがないとか、すごく言われてるので、その辺は話し合っていってほしいなど。

(ARG 岡本)

でしたらここで、具体的な諸室仕様には記載せずに、ユニバーサルデザインであるのは法律上必須ですが、ユニバーサルデザインの関係法令をただ遵守するのではなく、あらゆる人にとってユニバーサルであることと、子育て世代により優しいことに配慮する、と記載しておくのはいかがでしょうか。その一文があれば、設計者にも、本当に優しいってどういうことか、単に法令上こうなってるから作っておけ、

ではない形で考えてくださる方であれば、皆さんとしても、この人は信用に足ると思える判断材料になると思います。

(内田委員長)

そういう一文を加えることで、そこを読み込む業者かをこちらも考えたいわけで。

単なるユニバーサルデザインに留まることなく、子育て世代に優しい、とかいう言葉になりますかね。そんな文を入れることは可能だということですけど。

他にいかがですか。

(図書館職員)

すみません。事務室ですが、貸出等のカウンターは配架・閲覧室に入る？ 事務室のほうに入る？

(ARG 岡本)

配架・閲覧エリアに設置です。事務室は事務室として単独で確保します。

現状だと、そういう部屋が見当たらないですよ。これは私も見て回って課題だと思いました。

開館中でも利用者に知られないようにパパッと相談しなきゃいけないことが必ずあります。それが成り立たない現状は論外です。そこをまず何とかする。

あと、これは皆さん苦勞されてると思いますが、カウンター内でデスクワークしないといけない。そうすると、ちょっと集中していると来館に気づきませんし、その結果「ぼーっとしてる」だの絶対に言われます。あれ、非常に辛かろうと思います。

なので集中作業の時は事務室、カウンターに出てる時は手持ち仕事無しにしてフロアワークに勤しめる。働き方の場所の分離はしたほうがいいです。

もちろんある程度繋がってることも大事です。カウンターから事務室にすぐ声かけできるよう配慮は必要です。ただ、一定の独立した事務室は、この規模になったら欠かせない、あって当然と感じています。

(内田委員長)

ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

(図書館職員)

すみません、いいですか？

この中で図書館のイベントや講座を行う場所や、会議室はどこに当たりますか？

(ARG 岡本)

今のところ、配架・閲覧・展示エリアに、スタジオ・アトリエ、交流コーナーに含むと考えています。

一つ悩んでいるのは、会議室を明確に定めて持つかです。今回はあえて会議室の項目を作りませんでした。理由は、回転しないから。

ただ、この中に何某かの読み聞かせコーナーといったものは必要になってくると思ってます。それが配

架・閲覧・展示エリアに固定の場所として置けたらいいと思いますし、一方で、スタジオ・アトリエでより大規模におはなし会ができるような運用をすることも合わせて考えられます。

会議室も、必要性についてお伺いしたいです。大体の図書館内会議室って、ほとんど稼働しない。365日で見ると1日2日しか使われてない無駄空間になりやすく、結果的に物置化することがよくあるので、限られた部屋の中で、それを作るべきなのか否か。

それでも会議室的な部屋が必要だということなら、事務室をもう少し拡張して、そこに会議空間を仕切れるようにするのも手だと思います。

あと、センター長室、館長室は作ってないです。ほぼ無駄だと思うんで。館長室って異様に広くて大理石のナントカが置かれてるみたいな開かずの間に必ずなるので、それはもう無し。館長、センター長、施設長も司書や学芸員の皆さんと同じフロアにいて、いつも顔を合わせることを重視した構成にしています。

(酒井委員)

それですと、さっき岡本さんが言ってたのは図書館職員さんの会議室であって、一般の方が使う会議室ではないんですか？

(ARG 岡本)

そこもまた悩ましいところで、一般的な町民の皆さんが利用するのはスタジオ・アトリエ、交流コーナーを限定利用できる運用が良いと思ってます。

さっきから言ってる図書館会議室の難しさって、業務として会議室を使いたいってニーズが必ずあるんですね。だから一般開放にすると困るんですよ。本当に職員が使いたい時に会議室が使えなくなる。

かといって職員用だけにするとそこまで稼働しないという問題もあり、正直そこは切り分けるしかない。業務用途の会議室と、町民の皆さんが使う部分は、分けないと上手くいかない。

あとは規模感ですね。

(酒井委員)

あと、すいません、いわゆる静かに使いたい人用の部屋と分けてるじゃないですか、最近は。

あれは配架・閲覧・展示エリアにあるんですか？

(ARG 岡本)

そう考えています。

最近だと一か所だけ天井まで届くようなアクリルパネルみたいなので囲い込んで、そこを静寂ルームにするとか、様々なパターンがあります。そこは上手く両立させるのがよいと思います。

今回は、全般的には比較的自由ににぎやかに使えるのが当たり前の状態にしつつ、静寂は囲い込む形を志向しています。

(刈谷委員)

会議室に関してですが、ここの「有識者によるキュレーション委員会」「美術館運営審議会」、あと「図

書館協議会」も、図書館職員からすれば業務の会議で使うものがあると思いますが、その辺をどうしたらいいでしょうか？

(ARG 岡本)

これは、職員の皆さん、どうでしょう？

私はバックヤードを重視する派です。これは施設作りにおいてかなり重視している点です。

町民の皆さんのご理解が得られるなら、原則的に業務に使うものだとお許しいただいて、バックヤードエリアに一定の会議エリアをキープしたほうが良いとは思いますが。あとでバックヤード部分と町民に公開・開放するエリアと、切り分けを設計的に変えるのは大変なので。

あとは運用で詰めることになりますが、例えば図書館協議会や美術館協議会の利用が OK であれば、皆さんが今回されてるような「文化的施設と共に育つ会」はこう使えとか、文化的施設の向上に資する活動をしているところは登録制にして使えるようにするとか、いくつかやりようはあります。

そうすることで会議室を遊ばせておくこともなくすようにして、上手くお互いにやりくりできるようにしたら良いとは思いますが。

それで問題なければ、大体考えうる、大きすぎない協議会、各種委員会ができる程度の部屋のサイズで、ここは少し空間を追加するのが良いと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

公民館などだとスタッフルームや団体活動室という名称で、そこを利用している関係団体のロッカーがあつたりするスペースはありますね。

今回も住民の方々がよりスタッフとして関わっていくのを想定するのであれば、事務室のバックヤード辺りにそういうスペースが必要ではないかと。

場合によっては入口も分けて、そっちから入れるようにしてもいいわけですね。

(ARG 岡本)

伊万里市民図書館だと、市民協働団体「図書館フレンズ伊万里」という有名な団体が、事務局を図書館内に持ってます。あれはなかなか良いです。フレンズ伊万里を支える大きなポイントで、要するにフレンズのメンバーは図書館に行ってそこを使えるんです。ある種、特権的と言えます。ですがそこに伊万里市民図書館の職員とは別の形で、様々な市民の方がそこにいらして。

伊万里市は非常に視察が多い図書館ですが、そのスタッフの方が視察対応されて、作る時にこういう苦労があったんですよと、今はこうやってるんですよと、まさに市民協働をされています。

会議室とはまた別の観点で、一緒に図書館・美術館と歩んでいこうという観点で見た時に、そういう事務局を置ける場所があってもいいという考え方がいいかもかもしれません。

それもここで全て明記せずとも、全体的に空間に余裕があるので、スタジオの中に、スタジオ運営もまとめて担うような「育つ会」のスペースを置こうとか、そういうのもいいかもかもしれませんね。

(ARG 李)

今日の議論を伺っていて、今後のプロポーザルも考えた時に、全部数字を入れるんじゃないくて、ここは押さえておきたいという機能だけ数字を入れて、ここにあるもの以外も話に出てきましたので、項目だけ入れて合計が 2,100 m²みたいな示し方をしたほうがよいかと感じました。

(内田委員長)

ありがとうございます。そういうやり方もありますね。
何か他には。

(田邊委員)

中高生が試験中などに行くイメージなんですが、居場所として行く時に、それ以外として行く時も、どれをイメージされているのかちょっと。交流コーナーかなと思ったけど町民同士とあるので。中高生の居場所とか、どこかで意識してくださったらなと思いました。

(ARG 岡本)

まだざっくりした状況ですが、おそらく二つに分かれると想定されます。

一つは図書館で本当に自習する子たち。この子たちは配架・閲覧・展示エリアの座席を使う。人に干渉されたくない、一人になってがつつり何かをやりたい。必ずしも勉強だけじゃないと思います。好きなことをしたり、マンガ描いたり絵を描いたり。

都市部・地方に限らず、若者は「一人になれる場所が欲しい」と強く主張します。今までのワークショップ等の経験からしても、四万十町の場合は窪川高校にせよ四万十高校にせよ、高校生はその声はかなり強いと感じています。ですので、こういう一人になれるエリアを好む子たちが一定数出てくると思います。

他方、中高生らしくワイワイやりたい子たちはほぼ交流コーナーにたむろすると思います。それは一つの狙いですが、中高生だけがたむろするのではなく、そこに近隣のおじいちゃんおばあちゃんもいて、多世代が交流する形に上手くなればいいと。

これは単に空間を作るだけでは難しいです。複数の世代が交じり合うプログラムを、来年度のサービス計画を策定する中で盛り込む必要があります。

あとは委員の方々に対してサジェスションですが、例えば東京都武蔵野市にある「武蔵野プレイス」という図書館は、地下 1 階は子どもたちのみ、大人は立入禁止というくらいのポリシーを持っています。意図して積極的に子どもたちのスペースを作るんですね。特に幼稚園児や保育園児よりは中高生、小学校高学年から中学生くらいが強いターゲットです。その子たちだけが楽しくワイワイやる空間を作ってる。そういうケースもあります。考えようによってはそういうやり方をしてもいいと思います。

今すぐ決めずとも、この先の運用の中で決めればよいことですが、一つの考え方としてはそういうのもあります。

(酒井委員)

町有の土地として使えるのは 3,300 m²で、施設の面積としては 2,100 m²で、駐車場や外で遊ぶスペー

スは、これとは別にあるわけではないんですよね？

(ARG 岡本)

駐車場はそこの中に取りになります。

これは今のところ、建物の設計と外構、つまり周辺部の設計が必要です。その外構の設計をする中で、どう駐車場を配置するのかを考えていきます。

この辺はまさに設計者の腕が問われるところです。あの空間を考えたら、前後の緑の豊かな空間を考えた時に、ちょっと外に出られる外構部分の提案もされると思われます。人工的ななだらかな斜面を作ってみて子どもたちが駆け上がれるようにするとかですね。

それこそ米こめフェスタの時に強く感じましたが、会館の滑り台以外にあの山を駆け登って駆け降りるのをくり返してる子どもたちがずっといて、確かに子どもはこういうの好きだよなど。こういうのがあるだけでそこに遊びを発見できるので。

腕のいい建築士であれば、そういったことを当然ながら考えると思います。ちょっと陽だまりの空間として、本を持ってお外に出られます、とか。そういった部分もこれから見ていくことになります。

だから、建築士によっては、建築面積そのものを削減してでも外の空間をもっと使わないか、という提案をする方もいるかもしれません。

(内田委員長)

ありがとうございます。

この基本理念、コンセプトが前提にあって、それをどういうふうに踏まえて出してくるのは大事な点なので。

こここうだからといって確定ではないので、今のご意見を踏まえて、もう少しこちらで手を入れて、最終案を出そうと思います。

では、その他を含めて全体で何かご意見はありますか？

(刈谷委員)

今回送っていただいた資料を前回郵送された分と読み比べながら見せてもらいました。下元さんの絵も入って、文章も、子どもが読める優しい言葉遣いになったと思いました。

いくつか質問があります。

p5の一番後ろに、「具体的なプログラムとしてレファレンスサービスの充実を検討していきます」とありましたが、これは、レファレンスという図書館の役割かと思ったんですが、文化的施設全体のレファレンスサービスを充実していくという意味なんでしょうか？

(内田委員長)

私なりの理解では後者です。レファレンスとは図書館だけでなく、ありとあらゆる相談が持ち込める施設のイメージです。困ったらあそこに行け、と。それを、「あなたの相談はここではありませんのであっちに行ってください」なんて施設ではだめなんです。ありとあらゆる相談が持ち込まれ、それを繋いでいけるようなイメージなので。

(刈谷委員)

じゃあ、施設全体のレファレンス機能として、そこを強化していくと。

(内田委員長)

むしろ非常に大事な、現代において、施設として大事な機能だと思って掲載しています。

(刈谷委員)

ありがとうございます。

あともう一点。第3章の「文化的施設のサービス目標」のイの1「文化的施設間の連携」ですが、これは後に続く文章に具体的に明記されてなかったと感じました。

例えば四万十町内において連携することは間違いではないんですけど、県や国との、自治体から上になるような、そことの連携ができるような、何か、形ってというのはあったらいいなと思って。

(内田委員長)

あえて「国」や「県」と出したほうがいいでしょうか？ 文化的施設であればどこも連携しようと、何なら外国とでも構わないわけで、むしろ積極的にそういうものを広めてほしいというくらいの発想ですよ。でもここだと「町内」文化的施設のイメージがやっぱり付きまといませんか？

岡本さん、どうでしょう？

(ARG 岡本)

そうですね。町内でというのは大前提としつつ、そこで閉じないで、町外、県外、そして国外に繋がっていいとですよ。

ここに来ることが、特に子どもにとっては世界に繋がる体験になることがとても大切だと思います。ですからそういった部分「も」頑張るよと追記したほうがいいと思います。

ちなみにそこを書くのを避けたのは、まずは窪川・大正・十和の三つを重視しているからです。

でも同時に、世界に広がる・繋がるという要素があったほうがよいですね。四万十町だけでできることが全てではありませんし、近隣自治体と手を携えながらできることもたくさんあるので、その部分は追記します。

(酒井委員)

すいません。これが出来たら十和では必ず聞かれてしまうと思うんですが、この10億20億円かけての設計段階の時に、大正や十和に配分するその設計も同じ設計者の方がされて、それも含めて10億20億円だと伝えたらいいんでしょうか？

(内田委員長)

窪川中心になってはいけませんよ。そうならない発想を常に持ってやろうというのが、この委員会としてはあるので。

(事務局)

数字が出るとそれだけが走って行きがちですが、今度のプロポーザルについては、窪川に出来る施設の設計と考えております。

この文章には金額は入ってないわけですが、今後、十和に新しい施設の建設を検討していくことになるとは思います。今回の設計については、窪川に出来る施設の設計ということになっております。

(酒井委員)

それで行くと、十和に対して施設の建設まで行ってくると、どんどん後になるのは目に見えてます。一緒に同時に繋がっていくって感覚を十和の人に持ってもらうためには、サービスだけでも同時に発信してほしいんです。それで行くと、年間の、新しい施設の維持費の中に、サービスとして十和と繋げていくものを含んでことですか？

そのためには、これ、すごくタイトなスケジュールに見えます。しつこいですが館長がしっかり決まっていなくて、動きようがないようにも見えます。各種団体と繋げて、レファレンスサービスするにしても、繋がっていないと司書さんたちも困ると思うし。館長を決める時に、順序が決まっていなくて、十和の人にとっては「いつになったら」ってことにもなるし。

これが竣工した時に、本当にこの中身は計画通りに動いていくのかっていうのが、ちょっと読めないと思いました。

(内田委員長)

今のご意見は非常に大事ですね。

設計者が決まって実際に動き始めるのと併せてサービス計画や、教育委員会の体制も、本格的に動き出す形を示しながらやっていかないと、酒井さんがおっしゃったことを多くの人が懸念すると。

(酒井委員)

すごくざっくりした例えですが、B&G 海洋センターが窪川にあるんです。指定管理でやってくださってるプールが、窪川の東又地区にしかないんです。十和や大正の子たちは水泳大会で結構いい記録を残してる子が多いけど、プールが近くにない限り、プールで才能を発揮できるかという、そこはすごく怪しいです。

習い事一つ取っても、B&Gに通うのに片道2時間かけて行かなくちゃいけないし、月謝も払わなくちゃいけない。全町域の子どもに対して平等なサービスだと思えない節があります。

プールを一か所にしか建てないなら、町内の子は月謝を免除するとか、サービス自体は一緒に発信できるはずだから、そういうのは考えてほしいです。

(下元委員)

すいません、東又地区に住んでるので、プールが出来た理由を言わせてください。

東又は古い養豚場の関係で川が汚くて泳げないんです。だからあそこにプールが出来たという経緯があって、プールが出来ないと泳げなかったんです。

(ARG 岡本)

今回、十和分室のことはそこまで記載されてはいないです。

この計画書を読めば、かなり地域全体に開いていくという発想なので、そこを設計者には上手く読み取っていただきたいです。

応募する設計者には、先々「十和分室も自分が作りたい」というくらいの意地というか、私も、設計者がそこまで読み込んでくださる方がいると良いと思いますね。

(ARG 李)

実は今の下元さんの話にはすごく大事なことが隠されています。サービス以前に、まずそういった共有ができていないのがこの地域の問題だと思うんです。それは情報の共有って言い方でもいいし、だから図書館がそれをやるんだってことはもちろんあると思います。

今回ずっとこの委員会で話した内容に繋がりますが、ハードとかサービスとか以前のところをやらないと上手くいかない。それが今の会話の内容にすごく表れていました。

つまり情報が共有されてなくて、お互いが何となく見える範囲で判断してしまうことがたくさんあると思います。

建築以前のものをこのプロジェクトの中でどう考えるか。そして図書館は情報へのアクセスを保障する、情報で町民の暮らしを支えることが大前提なので、じゃあ図書館を包括した施設を作ることに、本当に、町民も含めて一緒に考えようということは、この計画の中に、委員会として含めることは考えていいと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

では、この基本計画ですが、今日頂いた意見を検討して、次回にはある程度決まった形で教育委員会にお渡ししたいと思います。ですので、細かい点を含めて岡本さんと相談しながら、ここまでは私に一任していただければと考えてます。よろしいでしょうか。

(林(一)委員)

一点だけ構いませんか。

岡本さん、教えてください。普通の公共施設等の設計委託は、普通の方式とコンペ方式がありますが、今回のプロポーザルという形式、私も充分言葉の意味を理解してません。考える所によると、今日示された基本計画をここで作り、決定して意見としてまとめて、それを示した中で、その範囲内で委託するという意味かと思いましたが。

事務局も言うように予算が限られていますし、今後の町の人口減など様々な問題が発生すると思います。それを想定しながら、町民の望む文化的施設は何ぞやと、こういう形になってくと思いますが、基本計画の中で行くと具体的な内容が示されて設計者の得意性が示されると思いますが、画一的な設計とならないことを避けるために、一定の枠を基本として、これを示して設計をしてほしいというふうに理解していいと私は考えます。

ただ、素人の我々の考え方だと、p14～15にかけての、最低限これだけは欲しいという施設内容、普通でしたら大きなホールや研修室といったものですね。それからこの四万十町には常設展が一回もないです。町長の頭の中には常設展が欲しいという声もあると聞きます。

そういった規模の小さいものがあるべきだという気がして、今日の会議を聞いて思いました。

それら細かい点を考えて、我々は町民の声がどこにあるのかを考えて、意見をまとめることも必要だと思いながら聞いておりました。そういった面を最後にお聞きしたくて質問しました。

(ARG 岡本)

まずプロポーザルですが、設計者を選ぶ手順はいくつかあります。

一番ありがちで一番まずいのは入札です。100%、安かろう悪かろうになります。特に安く受諾されると、よけいな注文ができなくなります。結局、自治体側としては「え？」ってものになりがちです。

今まで比較的行われてきたのがコンペ方式です。コンペは人を選ぶのではなく案を選ぶものです。その結果、奇抜な建築作品が世の中に溢れていると思います。高知県内にもコンペで決まったものはあります。案で選んでしまうと、建築家の言い分をそのまま呑んでしまうんで、修正がかけにくくなるという弊害があります。「この案を選んだんでしょう？ 何でこの建物の構造を変えるって話になるんですか？」というふうに、もめます。

近年、国土交通省が推進しているのが、プロポーザル方式。案ではなく人を選ぶというものです。特に人は、チームの体制や規模や実績ではなく、発注者である町の皆さんと向き合って対話をしていける人間かどうかを選ぶ。あるいはそういうチームであるかを選ぶものです。

ですので私どもも今回、プロポーザル方式をお勧めしております。

ただ残念ながら、プロポーザル方式と言いながら、案で選んでいるプロポーザルのほうが大部分です。

今回は案を見るのではなく、その方の^{ひととなり}為人、そして四万十町のことをちゃんと勉強してきたか、町のことをきちんと読み込んできたのか、そういったところをきちんと持った上で、一応一つの算法としての提案をしているのか。そこをきちんと提案しているかを聞きたいと思っています。

後半でご懸念された各種規模、美術館の展示部分の扱いに関しても、現状においてはそのような選定方式を取るために、ここではサンプル的考え方のみを示し、設計者に提案を頂きつつ、最終的に町民の皆さんが納得いく設計案に落としてくれるのが良いと思います。

先ほど弊社の李が申し上げましたが、ある程度の数字をバサッと取っちゃうのも手だとは思いますが。

それが結論ではないですが、美術館で常設展示も行えたらいい、定期的な企画展示も行えたらいい、という希望だけは表記しておいて、それをどのような形で実現するか提案していただくとか。

常設展示においても、いかに美術館の中を理解しているかに関わります。四万十町の場合、今のところ絵画資料が比較的多いです。そうするとやはり絵画資料の展示をきちんとできるのと、ショーケースに入れて展示するのとでは、空間の使い方は全く変わります。その辺も含めて、条件を設定するのも一つの手だと思います。

その辺に関しては我々も今日の議論を受けて、もう少し精査・調整させていただいて、内田先生に確認をご一任いただくのが良いと思います。

林さんが言いました費用の話も、設計プロポーザルにおいては、工事金額は大体このくらいだと明示します。そうしないと、できもしない広さのもの、新しい技術を提案されても困っちゃうので、一応これ

だけの金額で見込んでいます、使っていい場所、用地はこの辺です、ということまでは示した上で、設計者に考えていただきます。

(林(一)委員)

ありがとうございました。

全く文化的施設が無いところからの初めての建設ですし、予算面もありますし、すでに建設予定地も町長から示されたという枠の中で設計されることになりますので、代表の岡本さんから渡された内容ですが、我々も責任ある委員会の中におりますので、町民から「いい施設が出来た」と言われるような結論を出したいと思って、質問しました。

(ARG 岡本)

今日はかなり議論があったのと、今日ご欠席の委員も多いです。

本来やりたかったことが一つあります。1年前を思い出してください。こういうワークショップをやりましたが、ここまで基本計画が固まった段階で、今一度、それぞれの世代を見て、この文化的施設がオープンしたらどんな利用の物語が生まれるかを、今この時点だからこそあえて皆さんに書いていただきたいと思います。

本当は今日、それに時間を取ろうと思っていましたが、ここの(少ない)参加者だけで書いてまとめても、他の委員さんの声もまとめたいので、申し訳ないんですが、後日事務局から郵送なりしていただきますので、皆様、これを宿題として記入していただければと思います。

私どものほうで責任を持って取りまとめて、そのままではなく、皆さんの思いを上手くまとめた形で、この時点における検討委員の皆様が未来に対してこういうふうになってほしいと思ったんだ、という思いを、第2章の重要な構成要素にしたいと思います。

これを作っておけば、先々、それこそ施設がオープンした時に、これを読むことで「こういう場になるということだったんだ」となりますし、それこそ設計者にこのストーリーをぜひ読んでいただきたい。このストーリーをどうやって建築的に設計的に自分の力で実現していただくのか、考えていただく良い話になると思います。

お一人1エピソードで構いませんので、1、2週間を目途に書いていただきたいと思います。

こちらは我々のほうでまとめて第2章、全体的にボリュームにならないよう詰めてきたので、ここに2~3ページ以内に、皆様の思いを上手く複合化させてまとめます。

メールで対応可の方には担当課からメール等を送っていただいて、そうでない方には郵送、手渡ししてもらおうという形で。

(酒井委員)

これは、私のもとにすでに熱い文章を送ってくださってる方がいるんですが、今回は委員会の人だけのものを出したらいいですか？

(ARG 岡本)

はい、それで大丈夫です。

このタイミングで委員の皆さんに書いていただくことにすごく意味があります。たくさんのご意見を、委員の皆さん、ご自分の中に受け止めてらっしゃると思うので、より書けると思うんですね。1年前の時点よりも、色々な人の思いを皆さんが、皆さんの中に引き継いでいるので。

書く時にぜひそこを意識していただければ、こうやって書いてくださった方々の思いもきちんと受け止められると思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

では、そちらは事務局にお任せするということで。

それでは、およそ今日の議事は終了しましたが、今後のことで何か加えておくことがありますか？

次回は12月3日、午後2時からです。その時には、この計画書を教育委員会にお渡しする時間になるかと思えます。

(酒井委員)

最後にすみません。改めて、米こめフェスタで皆さんには本当にお世話になりました。

図書館員の皆さんには本当にお世話になりまして、ARGの方々には陰で支えていただいて、課の皆さんにはチラシがいっぱいで大変だったと思います。高校、学校などの方には、忙しい時期に快く引き受けていただいて、林さんたち思いのある方たちも受け止めてくださって、感謝しています。本当にありがとうございました。

(内田委員長)

ありがとうございました。

では、第6回の委員会を終わりたいと思います。事務局にお返しします。

(事務局)

お疲れ様でした。

これをもちまして、第6回四万十町文化的施設検討委員会を終わります。ありがとうございました。

【閉会】